

# 地球電磁気・地球惑星圏学会

## SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH, PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

第136号      会 報      1992年7月31日

### 目次

	頁		頁
1. 第92回総会並びに講演会開催のお知らせ	1-4	6. 田中館賞候補者推薦について	5
講演申込用紙	2	7. 研究会開催案内	5
予稿原稿フォーマット	3	8. 研究助成金案内	5
2. 第167回運営委員会報告	4	9. SEDIシンポジウム報告	6
3. 国際学術研究集会出席補助金受領者	4	10. 最近の若手会の活動について	6
4. 新入会員	4	11. 名簿作成について	7
5. 学会会員数	5	名簿作成用原稿	裏表紙

# 750冊

### 1. 第92回総会並びに講演会開催のお知らせ

第92回総会ならびに講演会は国立極地研究所のお世話により下記の通り開催されます。

○期間：1992年10月20日（火）～22日（木）

○会場：板橋区立産文ホール

東京都板橋区栄町36-1 ☎3579-2221

東武東上線大山駅もしくは都営地下鉄三田線

板橋区役所前駅下車5分

JR線板橋駅よりタクシー10分

（案内図はプログラムに掲載予定）

○講演申込および予稿原稿送り先：

★地球内部および月・固体惑星関係

〒606-01京都市左京区北白川追分町

京都大学理学部地質学鉱物学教室 鳥居雅之宛

★太陽・惑星間空間・地球・惑星電磁圏および

地球・惑星大気関係

〒311-12茨城県那珂湊市磯崎町3601

通信総合研究所平磯宇宙環境センター 小川忠彦宛

○講演申込は9月7日（月）締め切りです。締め切り日以降に到着した申込、電話やFAXによる申込や遅延依頼は受け付けません。

○総会議題の申込も8月31日（月）までに会長宛書面をお願いします。

○次頁の講演申込用紙をコピーしたものに必要事項を記入して、予稿原稿とともにお送り下さい。なお、講演申込用紙の氏名、所属はプログラム編集・印刷の都合上、必ず日本語でお願い致します。（講演題目は英語でも結構です。）外国人の氏名はアルファベット表記でも差し支えありませんが、所属はできるだけ日本語で表示して下さい。

○非会員のみによる講演申込は受け付けません。筆頭著者としての講演申込は原則として一人一件です。ただし発表分野が異なり、それぞれを口頭、ポスターに分けて行なう場合に限り一人2件までの申し込みを受け付けます。

○予稿原稿は、規定の枠（A4：3頁参照）にあうようにできるだけワープロを使用して下さい。

○プログラム編集が迅速に行なえるように、予稿原稿のコピーを必ず同封してお送り下さい。

○口頭発表の時間は15分（講演12分、質疑3分）を予定していますが、申し込み数によっては短くなる場合があります。

講演申し込み用紙

(コピーしてお使いください)

1. 題目: \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

(アブストラクトと同じ言語で記入してください)

2. 氏名 (所属): \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

(日本語で記入してください)

3. 発表分野 (○をして下さい。複数可)

- A 地球内部: 1.主磁場 2.電気伝導度 3.地殻活動電磁気学 4.磁気異常  
5.岩石磁気・古地磁気 6.その他 ( )
- B 固体惑星: 1.太陽系 2.月・隕石 3.比較惑星 4.その他 ( )
- C 太陽・惑星間空間: 1.太陽・太陽大気 2.太陽磁気圏構造 3.惑星間空間擾乱 4.宇宙線  
5.太陽風・磁気圏相互作用 6.その他 ( )
- D 地球・惑星電磁圏: 1.磁気圏構造 2.電離圏構造 3.磁気圏電離圏結合 4.オーロラダイナミクス  
5.磁気圏プラズマ波動 6.ULF波動 7.惑星電磁圏 8.その他 ( )
- E 地球・惑星大気圏: 1.大気圏力学 2.大気圏化学 3.大気圏放射 4.惑星大気  
5.その他 ( )

4. 発表形式: 1.口頭 2.ポスター 3.どちらでも可

(必ずしもご希望に添えないことがあります)

5. 映像装置: 1.ビデオ装置 (VHSのみ)・ 2.映写機 (8ミリ)

6. 発表順位: 以下の講演の (前/後) を希望します。

著者: \_\_\_\_\_

題目: \_\_\_\_\_

7. 予稿原稿は次ページのフォーマットに従って、A4用紙にできるだけワープロで清書してください。

8. 予稿原稿のコピーを必ず1枚同封してください。

9. その他ご希望、ご意見などがありましたら以下にお願いいたします。

[予稿原稿フォーマット]

45mm

15mm

25mm

25mm

15mm

15mm

10mm (講演番号) 講演題目

著者(所属)

ここには何も書かない

✓連名の場合、スピーカーの左肩に○を付けてください。グループはスピーカーを明示してください。

Title of abstract

Author (Affiliation)

これらの枠は印刷されません

英文アブストラクトを付ける場合はここに  
(本文が英語の場合は不用)

本文(英文は段組しない)

✓範囲を示す枠は印刷されません。書く必要ありません。

✓原稿は約80%縮小されます。文字の大きさに注意してください。

✓プリンターの印字が薄すぎないように、手書きの場合は黒インクを使うよう注意してください。鉛筆やボールペンは使わないでください。

✓十分鮮明であれば、B4用紙に書いたものをA4に縮小コピーしてもかまいません。ただし、図表は原版を使用してください。

✓図表はシワにならないよう、剥がれないよう注意してください。透明テープで上から貼らないでください。

コピーを同封してください

A4用紙の外枠

7mm

15mm

○限られた会期を有効に利用すべく、ポスターセッションのために最大約200件の発表スペースを準備しておりますので奮ってお申し込み下さい。ポスター発表・口頭発表の区分はご希望にできるだけ従いますが、プログラム構成の都合上ご希望の区分以外での発表をお願いすることがありますので、ご協力下さるようお願いいたします。

- 会場の関係でポスターセッションは
- 9時30分—11時30分 ポスターA
  - 11時30分—12時30分 入替/昼食
  - 12時30分—14時30分 ポスターB

の2部制とする予定です。またポスターを掲示できるのは第2日目の上記時間帯のみとなります。

- ポスターの掲示板は、縦180cm、横90cmのベニヤ板1枚です。画鋏・セロテープなどは会場に用意いたします。
- 緊急の話題のために、約5件のポスタースペースを確保いたします。発表希望者は10月15日までに関係のプログラム委員に申し込んで下さい。
- 講演・ポスター発表の際にビデオ（VHS）もしくは映写機（8ミリ）を使われる方は、その旨、プログラム申込用紙にご記入下さい。

## 2. 第167回運営委員会報告

前回の会報発行以降、1992年7月4日に第167回運営委員会を宇宙科学研究所で行なった。内容は以下の通りである。

- 学会基金による国際学術研究集会参加経費補助の審査を行なった（次項参照）。
- アジア太平洋 I S Y 会議の後援依頼を受諾する事とした。
- 科学研究費補助金の審査委員候補者を推薦した。
- 平成4年度の出版助成金交付決定の通知を受けた。
- 会員名簿作成及び第92回総会、講演会の打ち合せを行なった。
- 新入会員の承認を行なった（次々項参照）

## 4. 新入会員

第167回の運営委員会で次の14名の正会員（内8名は正会員（学生））、1社の賛助会員の加入が承認されました。

正会員	113-1563	大久保 泰郎
・	613-1568	藤原 智
・	313-1569	永井 澄明
・	713-1572	天岸 祥光
・	413-1573	大矢 浩代
・	113-1574	林 政彦
正会員（学生）	813-1564	Djedi Setyo Widarto
・	513-1565	北原 麻子
・	913-1567	佐藤 秀幸
・	313-1570	菊山 浩喜
・	013-1571	福島 秀明
・	813-1575	岡林 昌宏
・	513-1576	Eddy Zulkarnaini Gaffar
・	213-1577	堀 久仁子
賛助会員	213-1566	夏原信義

## 3. 国際学術研究集会出席補助金受領者

今回は2名の若手会員からの応募があり、審査および投票の結果過半数以上の賛成をもって、次の方々の本年秋季AGU meeting 派遣が決定しました。

- 横山由紀子会員（職業訓練大学校講師）  
発表論文名：30-year Variation of the Earth Rotation and the Geomagnetic Field
- 河野英昭会員（東京大学大学院研究生）  
発表論文名：Prediction of the Magnetopause Distance by Using the Magnetic Field Data Acquired in the Dayside Magnetosphere

なお、海外からの本学会講演会への参加助成（1993年度）については、9月21日締め切りで募集中です。

地質調査所地殻物理部
国土地理院測地部
日本大学理工学部一般教育
静岡大学教養部
千葉大学工学部電気電子工学科
名古屋大学太陽地球環境研究所
京都大学理学部地質学鉱物学教室
千葉大学理学部地球物理学講座
秋田大学鉱山学研究所応用地球科学教室
秋田大学鉱山学研究所応用地球科学教室
秋田大学鉱山学部鉱山地質学科
東北大学理学部超高層物理学研究施設
京都大学理学部地質学鉱物学教室
東北大学大学院理学研究科地球物理学専攻
株式会社 夏原技研
大阪市淀区宮原1-19-1 新大阪エクセルビル302

## 5. 学会会員数 (1992年7月現在)

正会員	正会員 (学生)	名誉会員	賛助会員	外国会員
546	108	4	15 (25口)	53

## 6. 田中館賞候補者推薦について

田中館賞候補者推薦は8月31日(月)までに西田篤弘会長宛必要書類(推薦書、被推薦者履歴書、業績リスト、関係論文別刷り等各11部)をお送り下さい。

## 7. 研究会開催案内

- 「STEシンポジウム」 外観測」, 「スペースプラズマシミュレーション」  
日時:平成4年9月29日(火)~10月1日(木) その他を予定  
場所:KKR名古屋三の丸会館 申込み:締切8月25日  
主催:名古屋大学太陽地球環境研究所 問合せ・申し込み用紙請求は  
内容:主テーマは「太陽圏・地球圏の結合」、副テ 〒464-01名古屋市中千種区不老町  
ーマは「太陽圏の構造・擾乱」, 「太陽風と電磁気 名古屋大学太陽地球環境研究所東山分室  
圏」, 「太陽放射(粒子・電磁波)と大気」, 「海 柴田隆(電話052-782-3786 FAX052-782-3866)

## 8. 研究助成金案内 (下記助成金のいずれについても詳しくは総務まで。)

### ●山田科学振興財団 (会報135号記事再録)

○1993年度研究助成 〆切1993年3月31日

自然科学の基礎的研究(期間1993年4月~1995年3月)を対象。援助の総件数は10件、総額は6,000万円、1件あたりの援助額は300~700万円とのことです。選考の結果は1993年7月迄に通知されます。

○1993年度短期間来日(3か月以内)援助  
〆切1992年11月30日 総額1,500万円

○1993年度長期間派遣(6か月~1年)援助  
〆切1992年11月30日 総額4,500万円

○1992年度短期間派遣(3か月以内)援助

〆切出発予定日より4か月以前の月の15日  
総額4,500万円

### ●日産科学振興財団 (会報135号記事再録) 〆切1992年8月31日

対象:次の課題および類似する分野に関する基礎・応用研究。1. 人間と機器の係わり, 2. 資源・エネルギー, 3. 自然環境および都市環境, 4. 新しい機能材料, 5. 生命現象。

○一般研究(A)長期学際的グループ研究 推薦枠2件  
(1件1,500万円限度)平成5年度より2~3年

○一般研究(B)大きな発展の可能性を内蔵する課題の前段階的研究もしくは短期の研究, 推薦枠2件(1件300万円限度)平成5年度1年間

○奨励研究 若手研究者による萌芽的・独創的研究, 推薦枠は特に定めない(1件200万円限度)平成5年度1年間

### ●東レ科学振興会 〆切1992年10月9日(金)必着

独創的、萌芽的研究を活発に行なっている若手研究者対象。総額1億円、10件程度(3,000万円限度)。推薦枠2件以内。

### ●日本証券奨学財団平成3年度研究調査助成 〆切1992年8月20日

助成の対象:(理学および工学)新素材および環境改善に関する萌芽的研究を重視する。対象となる者は、大学において学術文化の研究調査に従事している個人またはグループとし、その研究者の年齢は55歳以下となっています。援助の総額は5,000万円、1件あたりの援助額は100万円程度とのことです。

これらの研究助成について、詳しくは総務までお問い合わせ下さい。

## 9. 第3回SEDIシンポジウム報告

第3回のSEDI (Study of the Earth's Deep Interior) シンポジウムが1992年7月6日から7月10日の5日間、国立天文台水沢の主催で岩手県水沢市で行われた。参加者は158名で外国からの研究者は52名であった。シンポジウムは

Earth Rotation and Core-Mantle Coupling  
Iron, Alloys and Silicate Metal Reactions / Plumes  
Heterogeneity of the Earth's Deep Interior  
Paleomagnetic Inferences about Dynamo Process  
Modern Geodetic Approach to Core Studies  
Progress in Geodynamo Theories  
Properties of Core-Mantle Boundary and D" Layer  
Formation of the Core Convection  
Geomagnetic Variation

の9つのセッションに分かれて、いくつかの課題について詳しい議論が行われた。パラレルセッションがなく、

### 1.0. 最近の若手会の活動について

手元の資料によりますと、地球電磁気若手会は1965年前後に発足したと言われていますから、かれこれ30年近く続く会ということになります。当時の主な話題としてはプラズマ物理の勉強会のような学術的活動、南極問題、就職問題等の学会に対する要求運動等が行われていたようです。主な構成メンバーはドクターコース、あるいは助手の方と言った顔ぶれです。ところが発足後10年程ほど経つと若手会はいったい何をやる所かという議論がされるようになってきています。時代の変化によって設立の主旨が変化すると言ったことはままたり、各代の事務局の方を悩ました問題の筆頭ではないでしょうか。最近若手会の中で出されている問題は、会のアイデンティティーという古くて新しい問題の他、特定の常連校にメンバーが固まっていること、活動メンバーの主力がマスターコースの学生に移りつつあり、それによって若手会の活動をあまり経験しないまま事務局を引き継がねばならなくなっていることなどが挙げられています。

私が若手会あるいは夏の学校に参加するようになったのは最近のことですが、これらの問題を抱えつつも、ここ2~3年の若手会の活動は(夏の学校の運営のしかた等においても)問題解決の為の地道な取り組みが見えてくるようになったと思えます。会員の参加を広く呼びかけるようになったこと、夏の学校にテーマを儲けて運営するようになったこと、などです。夏の学校は講師の方を招いての講演、学生の企画物(討論会、

浜野洋三(東京大学理学部)

各セッションは1、2のリードトーク以外はすべてポスター(5分間の発表を含む)であったために、非常に突っ込んだ議論が可能であった。今までの2回は主にダイナモ理論や磁場変動が主な課題であったが、今回は地震研究者の参加が多く、特にコア-マントル境界のマントル側に存在するD"層の存在とその不均質性について、地質学的にどこまで分かっているかについて議論が集中した。この層が熱境界層であるか物質境界層であるかは、コアの形成過程に重要であるだけでなく、現在のコア内部の流体運動の原動力を知るうえで有力な情報である。コア内部の流体運動に関しては実験結果や計算結果をカラー出力したり、ビデオで表示する講演も多く、具体的なイメージを持つのに役立った。今回のシンポジウムに関してはシンポジウムの当日及び事前の準備段階において岩手県及び水沢市の御協力に感謝する。

### 菊池雅行(平成4年度若手会事務局長)

セミナー等がこれに入る)の二つに大別されます。去年は講演に岩石磁気の手法を用いた地球磁場その物をメインテーマに据えた筋の通った物でした。また学生参加の企画物としては、実際に予算を伴ったミッションを自分たちで企画してみることが行われ、参加した学生には好評だったようです。

今年の活動はこの流れを受け、まず会員が若手会に何を望んでいるのかを明らかにし、この先何年かの活動の骨子を作ること、つまり活動に継続性をもたせることを目標に置いています。この目標の一環として活動内容を会誌等で明文化し次の事務局に引き継ぐことも予定しています。準備として過去の活動を冊子にまとめた資料を配布し、それを元にアンケート調査を行いました。結果は現在集計中ですが、この結果を夏の学校で発表して会員意識の調整、統一を計ろうと考えています(アンケートをざっと見ると、面白い所では、夏の学校で宗教、哲学の話題を取上げてみたい等の意見もでています)。夏の学校の運営は、講演に「恒星としての太陽、及びその周辺」として太陽本体の構造から地球へのエネルギー流入経路の話題をテーマに据えました。我々の分野は種々の分野に別れており、お互いにコミュニケーションをする場合、キーワードを理解していないと話が通じないことがままあります。企画物としては会員が自分の研究発表をする上で他の人にぜひとも理解しておいて欲しいキーワードを1つずつ出して頂き、それを元にさらに理解を深めるきっかけを作る企画を用意しています(出された用語を

もとに、用語を作成する予定です)。

今回は現在までの活動と今後の予定を述べさせて頂きましたが、夏の学校で話し合われた結果は後程会報で報告致します。私の感想では最近の若手会の活動はアクティビティーが、少しずつではありますが、上がっている

ように思えます。これはここ数年の事務局の方の努力によるものと考えております。一步一步着実に、より高度で意義深い会を作っていきたいと考えております。若い、あるいは「私はまだ若い」とお思いの方の更なる御意見、御参加を希望致します。

## 11. 名簿作成について

地球電磁気・地球惑星圏学会の名簿は1990年9月発行以来すでに一年半以上経過しています。会員数も増え、住所変更もかなりの数になっています。最新の名簿を作るためにご協力をお願い致します。つきましては、名簿用原稿(次頁をコピーしてお使い下さい)に記入の上、8月31日(厳守)までに学会事務センター宛に送付してください。10月~11月中に完成

して発送する予定です。今回の名簿では、電子メール番号も掲載する予定ですので、忘れずに記入してください。1990年9月発行の名簿から住所などが変更になっている場合、赤線を引くなど目立つようにしてください。名簿原稿の送付がない場合には1990年9月の名簿と同じ内容が掲載されます。

### 名簿用原稿送付先

〒113  
東京都文京区本駒込5-16-9  
日本学会事務センター内  
地球電磁気・地球惑星圏学会  
名簿係

お詫び：135号の会報記事(総会ならびに講演会報告)を以下のように訂正致します。  
開会の辞→山本衛会員、 大会委員長→松本紘会員

### 地球電磁気・地球惑星圏学会

会長 西田篤弘 総務 町田忍

〒229 神奈川県相模原市由野台3-1-1 宇宙科学研究所 0427-51-3911 FAX 0427-59-4236

庶務 寺沢敏夫(会報担当) email: terasawa@sungrl1.grl.s.u-tokyo.ac.jp

林幹治

〒113 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学理学部地球惑星物理学科 03-3815-8020(直) FAX 03-3818-0745

運営委員会(新住所) 〒113 東京都文京区本駒込5丁目16番9号学会センターC21(財)日本学会事務センター気付

03-5814-5810 会員業務(入退会、住所変更等、会費、会誌)

03-5814-5801 学会業務(庶務、窓口、渉外)

03-5814-5820 FAX

入会申し込み、国際学術交流事業への応募は運営委員会宛、田中館賞推薦は会長宛、研究助成金案内は総務宛、会報への投稿は担当庶務宛ご連絡ください。会報へのご提案、ご意見、情報提供、寄稿、お待ちしております。

地球電磁気・地球惑星圏学会名簿作成用原稿 (訂正箇所は赤線/赤字で明示してください)

会員番号 \_\_\_\_\_ 正会員 / 正会員 (学生)

漢字氏名 \_\_\_\_\_ ローマ字氏名 \_\_\_\_\_ (名字, 名前の順)

所属機関名称 \_\_\_\_\_

所属機関住所 〒 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_ (代表, 直通) 内線 \_\_\_\_\_

FAX番号 \_\_\_\_\_

E-mail 番号 \_\_\_\_\_

(主なもの一つ)

自宅住所 〒 \_\_\_\_\_

自宅電話番号 \_\_\_\_\_

最終学歴 \_\_\_\_\_ 大学 \_\_\_\_\_ 学部 \_\_\_\_\_ 学科 19 \_\_\_\_\_ 年卒業

\_\_\_\_\_ 大学大学院 \_\_\_\_\_ 研究科 (修士、博士) 課程 \_\_\_\_\_ 専攻 19 \_\_\_\_\_ 年  
修了

専門 (次の中から一つ選択)

- |            |           |           |
|------------|-----------|-----------|
| 宇宙線物理      | 岩石磁気・古地磁気 | 電波工学      |
| 電波・赤外天文    | 地球・惑星内部   | 環境科学      |
| 惑星間空間      | 地球内部電磁気学  | 生物科学      |
| 太陽物理       | 年代学       | 宇宙工学      |
| 地球・惑星磁気圏   | 火山学       | 宇宙プラズマ    |
| 地球・惑星電離圏   | 地震学       | 地球・惑星探査   |
| 地球・惑星大気    | 海洋学       | 測地学       |
| 太陽系・惑星起源論  | 物理探査      | 地球・惑星地質学  |
| 地球・惑星磁場生成論 | 磁気探査・磁気異常 | 地球・惑星開発工学 |

備考 (特に注意する点、学会事務センターへの希望など)